

名手訪問

中村 鴈治郎 (なかむら がんじろう)

対談 中村 鴈治郎 (歌舞伎俳優)

西川 扇藏 ((財)日本舞踊振興財団・理事長)

平成16年10月23日(土)【敬称略】



西川 先だっちは京都の南座の会でごいっしょさせていただきましたね。

中村 人間国宝の会でございますね。狂言の茂山千五郎先生や、文楽の住大夫お師匠さんやら、賑やかで楽しい会でした。

西川 私は初めて出演させていただきましたけれど、観客が超満員でしかも風情のある劇場でしたので、舞台上で踊っていて大変感動いたしました。

中村 昨年南座がこの会を開催いたしましたので、そのときも出させていたのですが、やはり大入りでした。南座は暮の顔見世で何べんも出させていただいておりますが、歌舞伎ではなくこのようないろいろな芸能の方が一同に会するというのもよろしいですね。

西川 東京でも人間国宝の会は何回かやっております、私も漸くこの春に出演させていただきましたが、超満員とはいかなかったようです。

中村 そうでしたか。まあ京都の街並は独特のものがありますし、ことに南座界限の四条河原町あたりはいつも大勢様がいらっしゃいますからね。

西川 はい。今回はまた別枠で座談会にも

出演させていただきまして光栄でございました。

中村 関西の方が多くなかで貴方は東京代表としてお出ましいたきましたので、お客様も喜んでいらっしゃいました。

西川 恐れ入ります。ところで今日は色々なお話をお伺いしようと思っておりますが、まず芸の出発点といいたいでしょうか、お若い時分に修業をされた頃のことをお聞かせいただけますでしょうか。

中村 私の芸の原点は何と言いましても武智(鉄二)先生に尽きるんです。高校三年の頃にお会いしたわけですが、武智先生によって私の内なる芸道精神が開花されました。

西川 いわゆる武智歌舞伎でございますね。

中村 はい。日本の伝統芸能を真から愛し、これをきちんと後世に伝えなくては歌舞伎はだめになる、との信念で当時の若手の役者を集めて鍛えてくれたのです。

西川 集められたのが亡くなった実川延若丈や、今の富十郎丈をはじめとしたメンバーでしたね。

- 中村 はい、なかでも私は一番若かったし基礎も何もありませんでしたから、先生は時の名人に引き合わせてくれまして、しかもマンツーマンでお稽古をしていただく、ということをしてくださいました。
- 西川 それはかけがいのない経験をなさいましたね。
- 中村 まず文楽の太夫、豊竹山城少掾の師匠に教えていただきました。ご自身の門弟にも余りお教えなさらない方から直に懇切丁寧にセリフのお稽古を付けていただいたのです。
- 西川 それは素晴らしいことですね。
- 中村 それはそれはこと細かくお教えいただきまして、私はいっぺんに歌舞伎が好きになりました。
- 西川 武智先生の先見の明だったのでしょうかね。
- 中村 お能は金春流の桜間道雄先生をご紹介いただきました。
- 西川 道成寺の乱拍子の素晴らしさでは最早伝説になっている超一流の名人の方ですね。
- 中村 さらに驚いたことに桜間先生は私の家にいらしていただいたのです。
- 西川 出稽古ですか。
- 中村 そうなんです。それでお稽古の内容はただ歩くだけ、畳の縁の黒い所を真っ直ぐに歩く稽古が大体一時間でした。しかも毎回そればかりで、一ヵ月ほど経った頃これでもうお稽古には参りませんと仰るんです。
- 西川 不思議ですね。
- 中村 そうなんですよ、武智先生にはお仕舞の稽古をするように言われていましたから。そうしたら桜間先生曰く、武智さんからは扇雀（当時、鴈治郎の前名）の腰は歩くとぶれるので直して欲しいといわれています、それが何とかなったからもうお稽古はいたしません、と仰るのです。
- 西川 なるほど、基礎訓練の徹底なのですね。セリフの言いまわしや、腰の入れ方など歌舞伎に不可欠な要素を大名人から習得なさったのですね。
- 中村 文楽では山城のお師匠さんが晩年で体調を壊されましたので、その次は綱大夫(先代)師匠に習いました。
- 西川 これまた偉大な名人ですね。
- 中村 はい、それでいつぞや合邦の玉手御前のお稽古を付けていただきました時のことです。夜も遅かったこともございましたし、一段落の区切りでお稽古を終えた後、保護者である武智先生が綱大夫師匠に、扇雀の玉手は如何でしょうかと聞いたのです。
- 西川 気になってしょうがないのですね。
- 中村 ええ、それで綱大夫師匠の応えは、まあまあですね、と仰られました。武智先生はご不満のご様子で綱大夫師匠に注文をなさいました。
- 西川 綱大夫師匠に直にですか。
- 中村 はい、そうなんです。まあまあでは納得がいきません、扇雀の玉手は上手いと言われるように教えてくださいさなければなりません、と。
- 西川 それはものすごいですね。
- 中村 若い役者がいくら名人についてもそうすぐに上手くなれるわけではないのですが、情熱の塊のようなものをお持ちでしたね、武智先生は。
- 西川 武智先生はすでに他界されてしまいましたし、また後半生から晩年には伝統芸術以外の様々なお仕事をなさっていらっしゃったので、最近の方は先生の業績を余りご存知無いです。
- 中村 仰る通りです。先生のなさったことを風化させないように、改めて見つめなおして欲しいものです。
- 西川 書籍もたくさん残っているようですから、伝統芸術に携わる方たちは大いに勉強していただきたいと思います。
- 中村 ところで日本舞踊の外国公演を盛んになさっていらっしゃるようですが。
- 西川 いえいえまだまださほどでもございませんが、今度の三月にはイギリスとフランスの三都市で公演をいたします。フランスは前回パリとり

- ヨンへ行きましたが、イギリスは初めてです。
- 中村 歌舞伎では先年イギリスで公演いたしました。
- 西川 大評判だったそうで。
- 中村 まだ歌舞伎がどのようなものか認知されていない時代は、いろいろと試行錯誤をいたしまして企画を練っていたのですが、もちろん今でも相手国の事情を充分考慮に入れて座組や番組を決めるのですが、おかげさまで外国でも歌舞伎が大分浸透されてきましたので、内容のあるしっかりとした芸を持っていかねばならない時代になってきたようです。
- 西川 なるほど。私どももやはり本物と言いましょか、日本で公演するときと遜色のないように心がけております。制作サイドの面では細かいことで節約をしたりはいたしますが、決して手抜きはしないというスタンスは持ちつづけております。
- 中村 芸は心ですからね。それと各国の色々な方と交流できるのが楽しみですね。
- 西川 歌舞伎はあらゆる国を訪問されているのでいろいろな人脈ができませんでしょう。
- 中村 先般のイギリス公演の時はグローブ座の芸術監督と懇意にさせていただきまして、その折の私の役は「曾根崎心中」のお初でして、歌舞伎の女形に非常に興味を示されていました。
- 西川 永年にわたる絶品の当たり役でございますから良く分かりますね。
- 中村 そんなこともございませんが、それでシェークスピアの時代には女形が存在していたと言うのです。つまり男優が女性の役を演ずることが。
- 西川 それは知りませんでした。
- 中村 それでグローブ座は伝統のある劇場だから昔のやり方を踏襲してみようと言いまして、決まっていた「ハムレット」を急遽「クレオパトラ」に差し替えて男優が主役を演じていました。
- 西川 日本の名女形に触発されたわけですね。
- 中村 去年はロシアで公演されましたが国の情勢は如何でしたか。
- 中村 治安の心配は余りございませんでしたし、食事も結構美味しくいただきました。モスクワは大都市ですし風格もありますが、印象に残ったのはサンクトペテルブルグでした。
- 西川 レーニングラードですね。クラシックバレエの本場ですね。
- 中村 ええ、劇場も街も大変素晴らしいところで、機会がありましたらまた行ってみたいと思っています。
- 西川 私どもはロシアは訪問したことがございませんので、イギリスの次は候補地に挙げたいと思います。
- 中村 海外公演では様々な形で文化交流が交わされるのですが、我々立方が実体験できるのはカーテンコールですね。
- 西川 日本の伝統芸術ではカーテンコールの風習がありませんが、仰るように舞台と観客が一体になって喜びを分かち合うと言う感じがします。
- 中村 そうなんですね、それに続くスタンディングオベーション、感動の瞬間でございますね。
- 西川 日本では凱旋公演等でたまにカーテンコールをいたしますと、結構受けるんですね。習慣がないといって構えていないで、本当に舞台が素晴らしくて感動した場合にはストレートに感情を表現してもよろしいかと思えます。
- 中村 どんなに仲違いしている国家同士でも文化の交流はありますしそこには戦争は存在し得ません。文化をもっともっと大事にするべきです。
- 西川 日本に話題を戻しますといよいよ坂田藤十郎の襲名が段々と近づいてきます。
- 中村 恐れ入ります。232年ぶりの名跡復活ですからそれなりの責任を感じております。

西川 南座がスタートなんですね。
 中村 通常の襲名は歌舞伎座で行い、それから各地を廻るのが通例なんです。やはり上方の代表の芸名ですから関西から始めることに意義を見出したいと思っています。

西川 歌舞伎の演出も本来は様々あって、近年は江戸と上方がその代表格であったわけですが、世間からはどうしても江戸の方が主流のように思われています。

中村 そうです。それは上方歌舞伎が衰退してきたのは色々な原因もあったでしょうが、同じ狂言で江戸と上方の二つの演出があって、観客は双方を比較しながら楽しむというのがあるべき姿だと信じております。

西川 今上演なさっていらっしゃる「沼津」の十兵衛も実に上方味の濃い感触でございますね。

中村 私を含めてせっかく関西の役者で固めていただいたものですからそれに応えようと思っています。

西川 市川團十郎に代表される江戸歌舞伎に、いよいよ坂田藤十郎が上方歌舞伎で楽しませていただけるので今から楽しみにしております。

中村 ありがとうございます。

西川 冒頭で武智先生からお受けになった影響は良く分かりましたが、お父様である先代からも当然様々な事を教わったことかと存じますが。

中村 それが父からはほとんど習っていないんです。若いときから住まいも別でしたし、まず教わっていないのです。

西川 それは意外ですね。
 中村 一緒に舞台には随分出させていたのですが、直接手を取って習った事はございませんね。それで面白い話がございましてね。父の当たり役だった「河庄」の治兵衛を初めて演らせていただいたとき、父から「私の治兵衛が嫌なのか」と言われましてね。

西川 はあ。
 中村 今までは父の治兵衛で私は小春を

演じておりましたから舞台では確かに一緒なのです、だから父も当然同じように私が治兵衛を演じると思っていたのでしょうか。ところが自分とは違う事をやっていると思われましてね。毎日小春役で私の治兵衛を見ていただろうということなんです。ところが芝居では小春は治兵衛を見てはいけないことになっていて実際父の治兵衛は同じ舞台に居ながら知らないのですね。

西川 面白いですね。演ずる役柄によってはそういうことがあるのですね。

中村 耳では何遍も聞いておりますからセリフ回しや、流れの寸法は体に染みついておりますが、ひよんなエアポケットがありました。

西川 私も「河庄」は何回か拝見させていただきましたが、先代に勝るとも劣らない当代の演技には心を打たれました。

中村 ありがとうございます。
 西川 今日は連日の舞台でお忙しいところをお付き合い賜りましてどうもありがとうございます。

中村 こちらこそお世話様です。イギリス・フランス公演の成功を祈っております。

西川 恐れ入ります。

.....
中村鴈治郎氏プロフィール

昭和6年(1931)大阪生まれ。2代目中村鴈治郎の長男。同16年大阪角座で「山姥」の金時で2代目中村扇雀を襲名し初舞台。平成2年歌舞伎座で「吉田屋」の伊左衛門、「河庄」の治兵衛で3代目中村鴈治郎を襲名。同13年近松座20周年記念公演で「心中天網島」を、またイギリスで「曾根崎心中」を上演。
 昭和28年毎日演劇賞。同55年芸術選奨文部大臣賞。同60年日本芸術院賞。平成2年紫綬褒章。同6年重要無形文化財保持者(人間国宝)。同年日本芸術院会員。同8年読売演劇大賞最優秀男優賞。平成15年文化功労者。